

## 船舶事故調査報告書

平成21年9月3日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 長 後 藤 昇 弘  
委員 楠 木 行 雄  
委員 横 山 鐵 男（部会長）  
委員 山 本 哲 也  
委員 根 本 美 奈

事故種類	乗組員死亡
発生日時	不明（死亡推定時刻は平成21年3月27日15時00分ごろと検案された。）
発生場所	不明（本船が発見された場所は、長崎県五島市福江港3号防波堤北灯台から真方位090°3,200m付近（概位 北緯32°42.1′ 東経128°53.4′）であった。）
事故調査の経過	平成21年4月1日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者としての船長からの意見聴取は、本人が本事故で死亡したため行わなかった。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>たいけい</sup> 大恵丸、4.68トン NS3-67533（漁船登録番号）、個人所有 9.80m(Lr)×2.37m×0.85m、FRP ディーゼル機関、171kW（漁船法馬力数）、昭和57年6月10日
乗組員等に関する情報	船長 男性 68歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士 免許登録日 昭和51年4月30日 免許証交付日 平成18年10月10日 (平成24年3月26日まで有効)
死傷者等	死亡 1人（船長）
損傷	なし
事故の経過	本船は、平成21年3月23日12時00分ごろ、船長1人が乗り組み、いか釣り漁の目的で長崎県五島市奈留島港を出港し、同市黄島南方の漁場に向かった。 船長は、日ごろ、日没から翌朝04時ごろまで操業を行い、福江港に移動して水揚げしたあと、同市螺螺島の西側で錨泊して休息し、15時ごろから錨を揚げて漁場に向かうという操業を繰り返していた。 27日12時40分ごろに船長の家族が連絡を取った以降、船長と連絡が取れなくなり、30日10時ごろ船長の家族から依頼を受けた者が、海上タクシーで捜索に向かい、13時23分ごろ、螺螺島西側に錨泊している本船と、ブリッジ左舷側に設置されたアンカーローラーとアンカーロープとの間に右腕を巻き込まれた状態の船長を発見した。 船長は福江港に搬送されたが死亡が確認され、検視により死亡推定時刻

	<p>は3月27日15時00分ごろ、死因は外傷性ショック死の疑いと検案された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 北、風力 3 海象：平穏</p>	
その他の事項	<p>発見時、機関は毎分約700回転で運転しており、クラッチは中立状態であった。</p> <p>ブリッジ前面左舷側に設けられたアンカーローラーのスイッチはオンになっており、機関と連結した駆動用Vベルトが摩擦で切断していた。</p> <p>船長の着用していたセーターの右腕部分がアンカーローラーとアンカーロープの間に巻き込まれていた。</p> <p>船長は、日ごろ、体調不良を訴えてはいなかった。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>不明</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>死因は外傷性ショック死であったものと考えられる。</p> <p>船長が外傷性ショック死したのは、揚錨のためアンカーローラーでアンカーロープを巻き揚げている際に、アンカーローラーに巻き込まれたことによるものと考えられるが、その状況について明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、長崎県五島市蠓螺島西側において揚錨中、船長がアンカーローラーに巻き込まれたため、発生したものと考えられる。</p>	